

2017年4月5日

ご参考資料

楽読
(ラクヨミ)Vol.
1,209Raku
Yomi

景気回復を背景に、 上昇が期待されるドイツ株式

楽読(ラクヨミ)

nikko am
fund academy

ドイツ株式が、昨年後半以降、堅調に推移しています。

その背景として、昨年のドイツ経済は、5年ぶりの高成長となるなど、景気回復が続いていることが挙げられます。世界経済の持ち直しによる需要拡大の恩恵を受けて、製造業が主要産業であるドイツでは、輸出の好調が続いており、貿易黒字は拡大傾向となっています。こうしたことから、ドイツの企業景況感を示すIfo企業景況感指数は、3月に2011年来の高水準となりました。また、失業率が過去最低水準となるなど雇用市場も改善しており、ドイツ連邦銀行(中央銀行)は、経済指標が示唆するよりも成長トレンドは強い可能性があるとの認識を示すなど、今後も景気の勢いは続くと考えられています。

欧州では今年、選挙動向が政治リスクとされ、同国でも9月に連邦議会選挙が予定されています。足元で社会福祉の拡充による富の再配分を訴えるシュルツ欧州議会前議長率いるSPD(社会民主党)が、急速に支持を伸ばしており、メルケル首相率いるCDU(キリスト教民主同盟)と支持率は拮抗しています。ただし、反移民や反EU(欧州連合)を掲げる他の政党の支持は広がっておらず、SPDとCDUのどちらが勝利しても金融市場へのインパクトはそれほど大きくないとみられています。

一方、巨額の経常黒字を抱えるドイツは、貿易赤字を減らしたい米トランプ政権から批判されており、論争が過熱する可能性があります。経常黒字はドイツ企業の高い競争力が要因などとドイツは反論しているものの、黒字削減に向けて国内投資を促すための政策を検討すべき、との意見も内外にあり、仮にそうした政策が採られれば、投資増が景気の追い風になると考えられます。こうしたなか、ドイツ企業の利益をみると、今年から来年にかけて大幅な改善が予想されているほか、足元の株式市場のバリュエーションには、世界の主要市場と比べて、過熱感は見られないことなどから、ドイツ株式にはさらなる上昇余地があると期待されます。

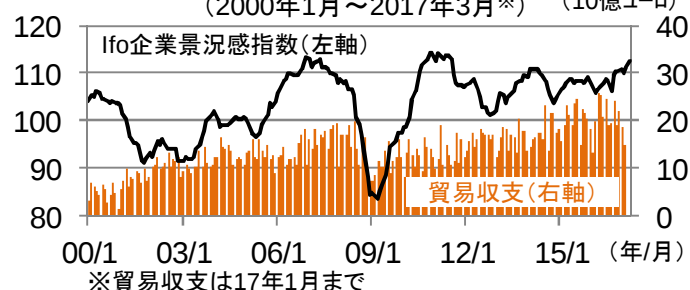
ドイツ株式の推移

(2016年1月4日～2017年4月4日)



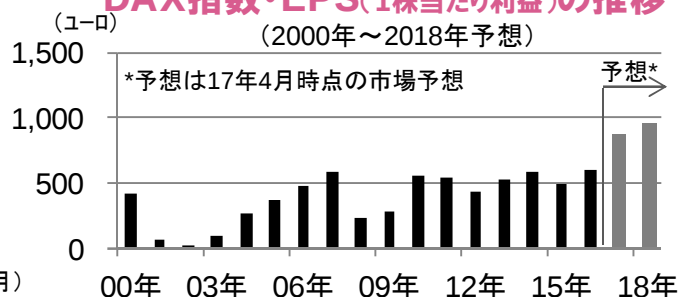
独・企業景況感と貿易収支の推移

(2000年1月～2017年3月※) (10億ユーロ)



DAX指数・EPS(1株当たり利益)の推移

(2000年～2018年予想)



信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成
※上記は過去のものおよび予想であり、将来を約束するものではありません。

日興アセットマネジメント

■当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。